

## 細江まさとの経歴

1946年(昭和21年)10月6日生

### 略 歴

彦幼、城西小、西中、彦根東高卒  
昭和45年京都産業大学経済学部卒業  
あなたの本棚 天晨堂 前代表取締役  
滋賀教科図書販売株式会社 取締役



### 団体役員

彦根青年クラブ石垣など青年団活動から社団法人彦根青年  
会議所役員を経て、現彦根ロータリークラブ役員

### 公 職

【元職】  
彦根幼稚園・城西小学校・西中学校・彦根西高等学校PTA会長  
彦根東高等学校 学校評議員  
中小企業大学校登録講師  
【現職】  
彦根商業開発協同組合(ビバシティ専門店街) 理事長  
滋賀県書店商業組合 理事  
彦根市議会議員(2005年補選にて初当選)

## 細江まさと後援会より

細江まさと後援会は、未来の彦根のお役にたてる  
議員として細江正人という人物を厳しく見守り、育  
ててゆくことが本来の使命かと存じます。

細江正人がそういった資質を持ち合わせており、  
必ず活躍してくれると信じて、私、武田は後援会会長  
を引き受け、保証できる議員として皆さんに入会を  
お薦めしております。

本会は、細江正人の議員活動が思いきってできる  
ようバックアップするという使命もありますが、皆  
様のお気持ちやご信頼、ご期待に反しておりましたら、  
叱咤激励していただくためでもあります。

まじめに考える人ほど、政治に期待することが少  
なくなった時代に、一人の市会議員の力など微々た  
るものではありませんが、私たちは心より細江正人に  
期待しております。

後援会ご入会がまだの方がいらっしゃいましたら、  
ぜひご登録いただきますよう、よろしくお願い申し  
上げます。

### 細江まさと後援会 会長 武田 拓夫

〒522-0064 彦根市本町二丁目2番44号  
(株)天晨堂内 tel 0749-24-2112・fax 0749-24-2114

### 後援会入会について

入会に関しては、専用の申し込みハガキ  
をご利用いただければ幸いです。  
郵送させていただきますので、TELまた  
はFAXにて、入会の旨お知らせください。

！ TEL.0749-24-2112  
！ FAX.0749-24-2114



## わたしたちの町……

彦根は江戸時代から連綿と続く歴史を有する町で  
す。写真は寺町の風景。真新しい石畳の向こう側は  
市場商店街が生まれ変わった「四番町スクエア」で  
す。「四番町」は江戸時代の「白壁町・内大工町・寺  
町」が合併して成立した町の名前で、明治22年犬上  
郡彦根町の大字、昭和12年に彦根市四番町となりま  
した。昭和44年、住居表示の実施で中央町・本町一  
丁目の一部となります。旧町名やコミュニティも  
また、江戸から、明治・大正・昭和という断続的に  
わたしたちの町に残る文化ではないでしょうか。  
十年ほど前からでしょうか「大正モダン・昭和レ  
トロ」という感性が観光客誘致に欠かせない重要な  
要因となっていると言われ始めました。  
大量消費社会、高速通信網の整備により、私たちの

記憶や感性までも消耗品のように扱われるような  
現代において……、時代の流れを否定することはで  
きないまでも……、「古き良き時代を懐かしむ」こ  
とで「少し前の自分」を取り戻そうとしているのか  
もしれません。モダンと称せられたライフスタイル  
や、レトロという懐かしい感覚を求める人々が増え、  
ヘリテージングと言われる近代化遺産を巡る旅が流  
行っているのもそのためでしょうか。  
わたしたちの町には、私たちが知らないだけで、  
多くのヘリテージングの要素が残されています。  
来年、国宝・彦根城築城400年祭が開催されます  
が、忘れ去られ、失われゆくモノの多い中、江戸と  
いう時代だけでなく、彦根の近代化の様子にも着目  
することも必要なのではないでしょうか。



Re-Discovery & New-Creation  
国宝・彦根城築城400年祭  
期間：2007年3月21日(祝)～11月25日(日)

## 想うことなど……

昨年4月の市議会議員補欠選挙におきましては、たい  
へん多くのご支援をいただき、心より感謝いたします。  
皆さまのおかげをもちまして、彦根市議会議員として仕  
事をさせていただくことができました。ありがとうございました。  
いました。

議員のありようが問われ続けている現代において、市議  
会議員になったあとも、生活者の目線を失わない議員で  
ありたいと思っています。

議員となる以前、PTA・地域活動・まちづくりなど、  
ボランティアとして参加させていただきましたが、「で  
きる時に、できる人が、できる範囲で取り組む」活動に  
限界を感じておりました。議会に参加させていただくよ  
うになってから、以前から市が抱えた諸問題に挑むこと  
ができるようになりました。家業の本屋は各部署でそれ  
ぞれスタッフが頑張ってくれております。私は議員活動  
に専従しプロとして時間をつくり、問題を深く掘り下げ、  
より良質な社会を築けるよう、議会に向けて勉強を積み  
重ねています。

現代社会には多様な情報が溢れており、メディアに着  
目されていること以外にも問題は山積しています。声高  
に叫ばれていることにだけ目をむけていれば足元を掬わ  
れかねません。だからこそ、私たち議員は多角的な視野  
を持たなければならないと考えています。他の人が精魂  
を傾けておられることに便乗して声を上げようとは思ひ  
ませんし、議員であることに固守することなく、私が取  
り組むことで、何ごとにおいても一歩前に進むことが出  
来る手助けができればと思っています。

細江正人

## More Better News Letter no.3

# 細江 まさと

彦根市議会議員





## 質問の仕方で変わる未来

彦根市議会議員になってから私のライフスタイルで一番変わったところは読書量ではないでしょうか。家業が本屋ですから昔から、「本は陳列しておくもの……」と読書などしなかった私ですが（特に精読は苦手でした）、以前に比べて多くの量を読みこなすようになりました。読書と言っても、そのほとんどが議員としての使命を果たすために、議会での質問に備えての事前勉強です。

議会では、端的な質問をしなければなりません。質問を斟酌した親切な答えは期待できません。今、何が求められていて、どう問えば、最も有効な答えが得られるのかをしっかりと念頭においておかないといけません。市議会議員にとって、よりよい彦根を築く第一歩が「議場での質問」なのです。

質問事項に対して必ず行政側から返答があり、その後、何らかのリアクションがあります。だからこそ、私たち議員は議会の限られた時間の中で、一秒たりとも無駄にせず、内容の濃い有効な質問をする使命があるわけです。

私の質問が常に的を得、最善であるとは思っておりません。例えば、他の多くの議員さんが頑張っておられる分野は、ベクトルが同じであれば任せておき、私にできる彦根の未来にとって必要な分野に挑んでいきたいのです（それが、選挙にはウケない分野であったとしても）。

例えば……、「市役所の各種証明書発行などのサービスを、日曜祝日や夜間に



申請、即日受け取り可能にすることが市民の利便性向上につながるのでは」という質問に対して、行政の回答は「自動交付機の導入を検討する」でした。

「彦根城周辺のカラスの増殖について」という質問に対しては「城内で花火を打ち上げて駆除する」という対応がなされました。

旧港湾の水質の問題、旧市立病院跡の利活用、文字・活字文化振興法など、問いかけることにより、よりよい変化の兆しをつかむことができるのです。

## 市民と行政の間にて

私たちの未来は、市民の皆さん、行政、議員、皆で創っていくものです。私は当初から、常に市民の代弁者であり行政のメッセンジャーであることを心掛けてきました。彦根のより良き未来のためにプロとして両者を繋ぐのが議員本来の仕事だと思っています。言い換えれば議員というのは『何かを成し遂げる者』ではなく、その何かについて『判断を委ね

られた者』ではないでしょうか。

何かを成し遂げるのは市民の皆さんや行政の努力があってこそです。

私はその間で正しいかどうかの判断を任された人間である責任を自覚し、「共に智慧を使い、汗をかき、産官学民の協働による彦根のまちづくり」のために、自らを勉め強いることを肝に命じています。

彦根のためになるかどうか、市民の皆さんのためになるかどうか、商工業者にとってはどうか、それが私の判断基準です。判断基準というものも、通りいっぺんではいけません。重さを量るには重量計、長さを測るには物差し、容量を量るには計量器、時間を計るには時計……といった具合に必要なに応じて様々な「はかり」が必要であるように、議員の判断基準も柔軟に対応できるものでなければ務まりません。自分の中にある物差しが何を測るものなのかをきちんと知った上で、それを磨き、次代に適した最も新しい判断基準を見つけていけるよう、日々勉強の毎日です。

議員は、単なるメッセンジャーであってはなりません。そこを議員の限界と受け止めるか、可能性として受け取るかは、日々どれだけ自分の判断基準を養っていけるかどうかにかかっていると思います。そういう意味では勉強の時間、質問を研究する時間はまだまだ不足していることを実感しております。しかし、ただ漫然としているわけにはいきません。私は市議会議員として可能性を信じ、皆さまのお役にたちたいと願っております。

## 市議会議員の 限界と可能性



## 細江まさと 議会質問記録ダイジェスト

### 平成17年6月定例会質問項目

1. 本町、旧市立病院建物の活用と有効利用の早期開始について
2. 特別史跡彦根城跡整備基本計画報告書にある彦根城跡整備事業計画の進捗状況と今後のタイムスケジュールについて
3. 彦根市の行う各種証明の交付について、距離的利便性から利用可能曜日・時間帯の利便性に向けて
4. 企業誘致の具体的手法について

### 平成17年9月定例会質問項目

1. 特別史跡彦根城跡の資産価値があがる築城400年祭としての取り組みを
2. 旧市立病院跡の利活用の早期開始について
3. 都市計画道路整備事業の進捗状況と見通しについて
4. 文字・活字文化振興法成立に伴い関連諸事業の強化を

### 平成17年12月定例会質問項目（一問一答）

1. 美しいひこね創造条例案について（質疑）
  - （1）美しいひこね創造活動について
    - ① 美しいひこねとは具体的にどのようなことを指すのか
    - ② 参加者を市民成人に限っているが子ども達も含むべきではないか
    - ③ 市内に勤務する人や市内に通学する学生も巻き込むべきではないか、したがって、市民団体の解釈ももう少し輪を広げてはどうか
    - ④ すでにこれらの活動が無償でおこなっている人々との整合性は
    - ⑤ 団体が資金目当てに登録させると使役の強要で美しくなくなる？
    - ⑥ 美しい行為の内、美化・保安・相互扶助・環境保全など地域へ向けた行為は理解できるが自分自身へ向けた行為ウォーキング・ジョギングはいかがなものか
    - ⑦ 今後変えていきたいとのことであったが、公約発表から8ヶ月経った今でも内容において成長が見られないものが何時改善されるのか、その見直しの時期について約束を！
    - ⑧ 役所の事務量の平準化を図るために年度の締めを繁忙期ではなく、閑散期にするなどの工夫、また受付の数、場所については？
  - （2）地域通貨「彦」について
    - ① ここで言う地域通貨は流通させて地域を活性化させるためならば金券や商品券であってはいけないと考える、本来、円(金額)では表すことのできない価値を表すためのもので、かつ地域住民である我々が流通させることにより、特定の価値観にメッセージを添えて伝えるコミュニケーションの手段にすることと考える。従って、換金する考えは180度変えていただきたいが、見解を
    - ② 流通する地域通貨には減価の方式が必要とも聞く検討はされたか
    - ③ 地域通貨を特定地域において流通させるとあるがこの地域とは漠然と市域を指すのかあるいは計画があるのか、あればそこは？
2. 旧市立病院建物の解体と跡地利用について（一般質問）
  - （1）建物の解体方法について
  - （2）解体費用見積もり6億8千万円算出の根拠について
  - （3）駐車場として利用するについて
  - （4）隣接の地元用施設「京橋会館」について
3. 彦根城周辺の様子について（一般質問）
  - （1）カラスの増殖について
  - （2）旧港湾の水質の悪化について

### 平成18年3月定例会代表質問

1. 「彦根市経営改革プログラム」について
2. 平成18年度彦根市一般会計及び特別会計予算について
3. 第3期彦根市介護保険制度改革について
4. 彦根駅東口「未来ロゴス2 1彦根」の求めるまちとは
5. 中学校給食に関して
6. 幼保一元化にむけて

### 平成18年6月定例会質問項目（一問一答）

1. 広報紙等の各戸配布を民間業者に委託する考え方について
  - （1）経費の面からは
    - ① 市広報等の配布文書は自治会等に依頼していると承知しているが、その手数料としての予算は年額いくらだったか
    - ② 自治会に依らない世帯への配布は郵便で送付と聞いているが、その数と占有比、またその費用は年額いくらになるのか
    - ③ ①②両方のすべてを一括で業者委託にすると総額いくらになるのか
    - ④ その差額(①+②)－③が経費の節減額と考えているのか
    - ⑤ ①の額を財源としている自治会ではこの資金が全く入らなくなると問題が出ないか、私の聞いた範囲でも一割位から多いところは三割近くのウエイトを占めているところもあるが、市として調査したか、したのであれば、その内容はどうかであったか
    - ⑥ 別途自治会へ増額で助成する用意はあるのか、あればその額と算出の根拠を示されたい
  - （2）自治会長など世話役の文書配布の負担について
    - ① 市もしくは県などの代行で市の担当部署が自治会長などの地域代表を招集するのは年間何回あるのか、他に類する諸団体では
    - ② 広報紙にセットされず自治会単位で折り込む配布文書は年間何種類、各何回あるのか
    - ③ 広報紙等の配布に便乗しているものが負担になっているのでは
    - ④ 業者委託になった場合、その地域独自の配布物を広報紙に便乗できるのかどうか
  - （3）コミュニティ形成の意味からは
    - ① 配布文書を広報紙へ折り込む作業が世話役のミーティングの場になっている自治会もあったが当局も承知されているか
    - ② 近隣が手渡しで配ることで内容のポイントを伝えたり、先方の状況の把握ができて大きなメリットがあると聞くが承知されているか
    - ③ 別ルートを作ることが自治会への非加入未加入を助長することになると考えられるが承知されているか
    - ④ 別ルートへ移してしまうことでコミュニティの崩壊に繋がると考えないか
    - ⑤ 防犯防災の面からはコミュニティの崩壊が最も怖いと考えるが対策をもっているか
    - ⑥ (1)②の自治会への非加入未加入が多い自治会、少ない自治会、全市各々で何世帯中何世帯またその占有比等、を開示下さい
    - ⑦ コミュニティ形成の観点から自治会への加入を促進する必要があるが、支援の体制は考えているのか
2. 市民の参画と協働によるまちづくり、市民との協働による市政の推進について(行政改革大綱等)（一般質問）
  - （1）市民に何を求め、行政マンは何を目指すのか、基本的な考え方をお示し下さい
  - （2）街づくり基本条例の制定とあるがその内容はどのようなものか
3. 企業誘致について(一般質問)
  - （1） 今後の進捗状況は